

■ 第3章 地域福祉に関する住民等の意向と課題 ■

1 市民アンケート

(1) 調査の概要

計画策定にあたって、市民が考える福祉サービス利用上の問題・課題、福祉サービスに対するニーズ、市民活動への参加状況等についての的確に把握することを目的としてアンケート調査を実施しました。

- ・調査対象：本市在住の18歳以上の人の中から、無作為に2,000人を抽出
- ・調査期間：令和元年11月7日から11月29日
- ・調査方法：郵送による配布・回収
- ・回収状況：回収数745通（回収率37.2%）
- ・調査結果の表示方法
 - (1) グラフに表示されているN値はサンプル数（有効回答数）を示します。比率はすべて％（パーセント）で表し、N値を100％として算出しています。
 - (2) 比率は小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。そのため合計が100％にならないこともあります。
 - (3) 複数回答が可能な質問では、各項目の比率の合計は100％を超える場合があります。
 - (4) 年齢別、居住地区別のサンプル数（有効回答数）は、無回答がある場合、合計が全体数より少なくなります。
 - (5) 本計画書の文章中での回答選択肢の表現は、趣旨が変わらない程度に簡略化して掲載している場合があります。

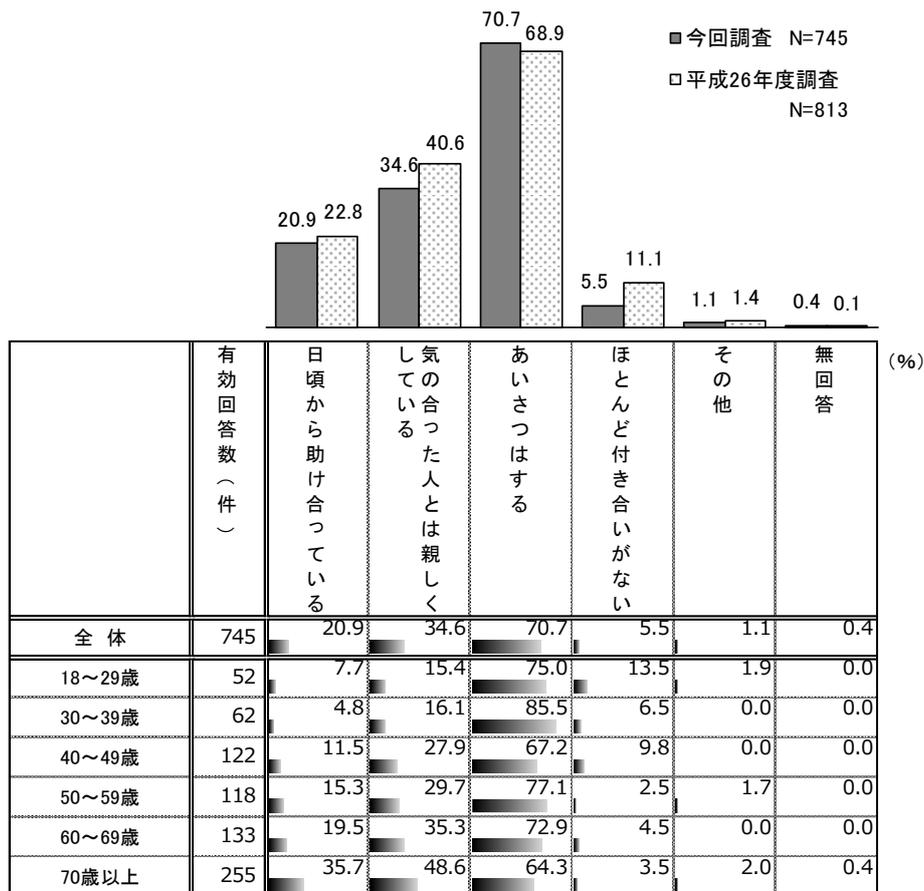
(2) 調査結果 (抜粋)

近所付き合い

近所付き合いについて、「気の合った人とは親しくしている」人や「日頃から助けあっている」人は、年代が上がるにつれ増加し、年齢に比例して関係性が深くなる傾向がうかがえます。言い換えると10～30代の若い世代ではあいさつ以上の関係づくりが難しく、希薄化が進んでいることがうかがえます。(図表24) また、近隣の人とほとんど付き合いがない人の理由として、「日頃仕事で留守にしているため」が4割半ばで最も多く、働いている世代において地域での付き合いが難しい状況もうかがえます。

地域への参画状況として、町内会・自治会への加入者は9割以上、コミュニティ推進協議会についても何らかの形での参加者は約5割となっています。今後はこうした地域への参加を促し、特に若い世代や働いている世代に対してのアプローチを検討していく必要があります。

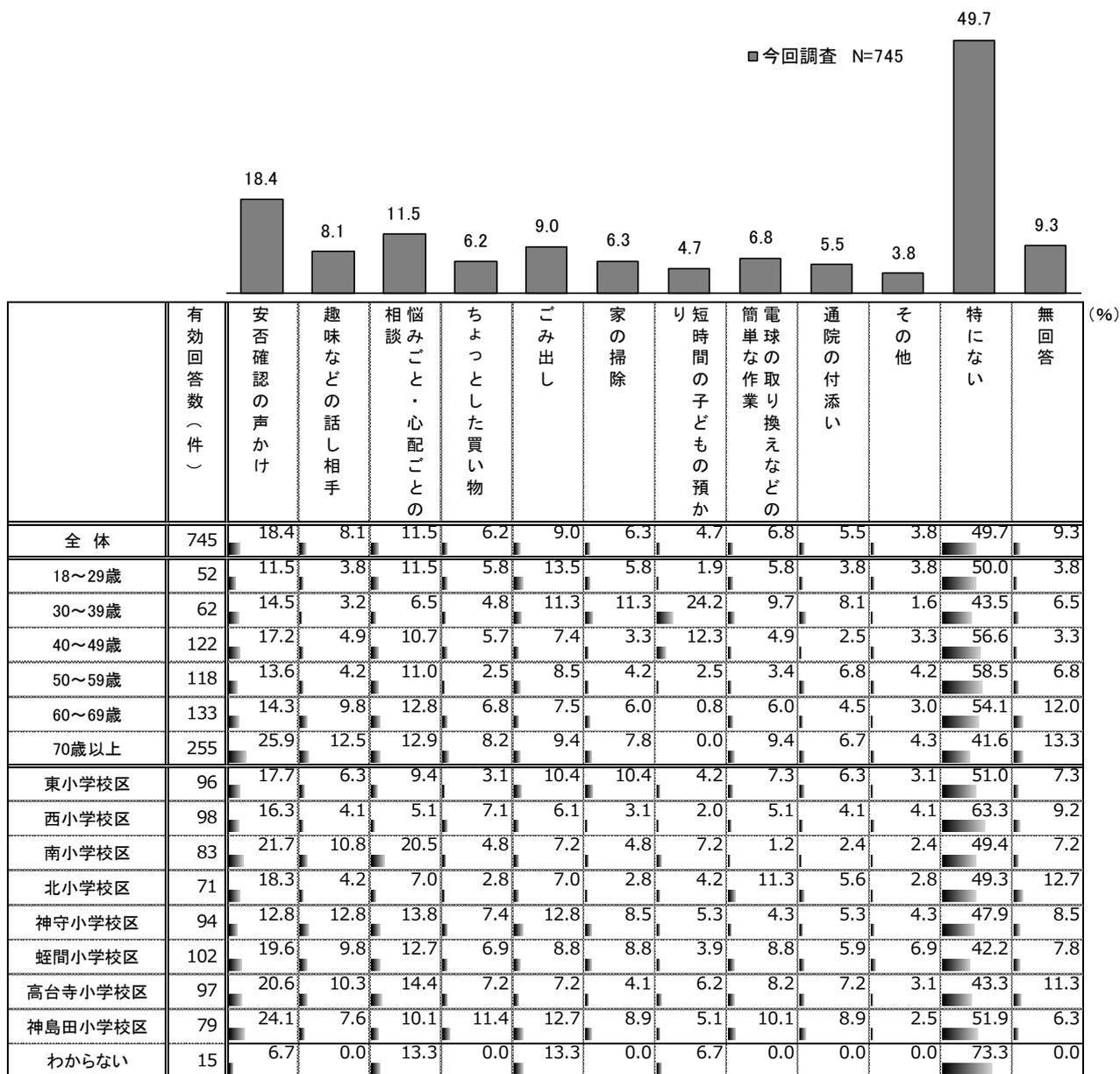
図表 24 近所付き合い



現在必要な支援

「お住まいの地域でどのような支援が必要か」については、「特にない」が約半数を占め、以下「安否確認の声かけ」、「悩みごと・心配ごとの相談」、「ごみ出し」となっています。「安否確認の声かけ」、「悩みごと・心配ごとの相談」は70歳以上で最も多く、「ごみ出し」は18～29歳で最も多くなっています。そのほか、「短時間の子どもの預かり」は、子育て世代の30代で最も多くなっています。(図表 25)

図表 25 お住まいの地域でどのような支援が必要か

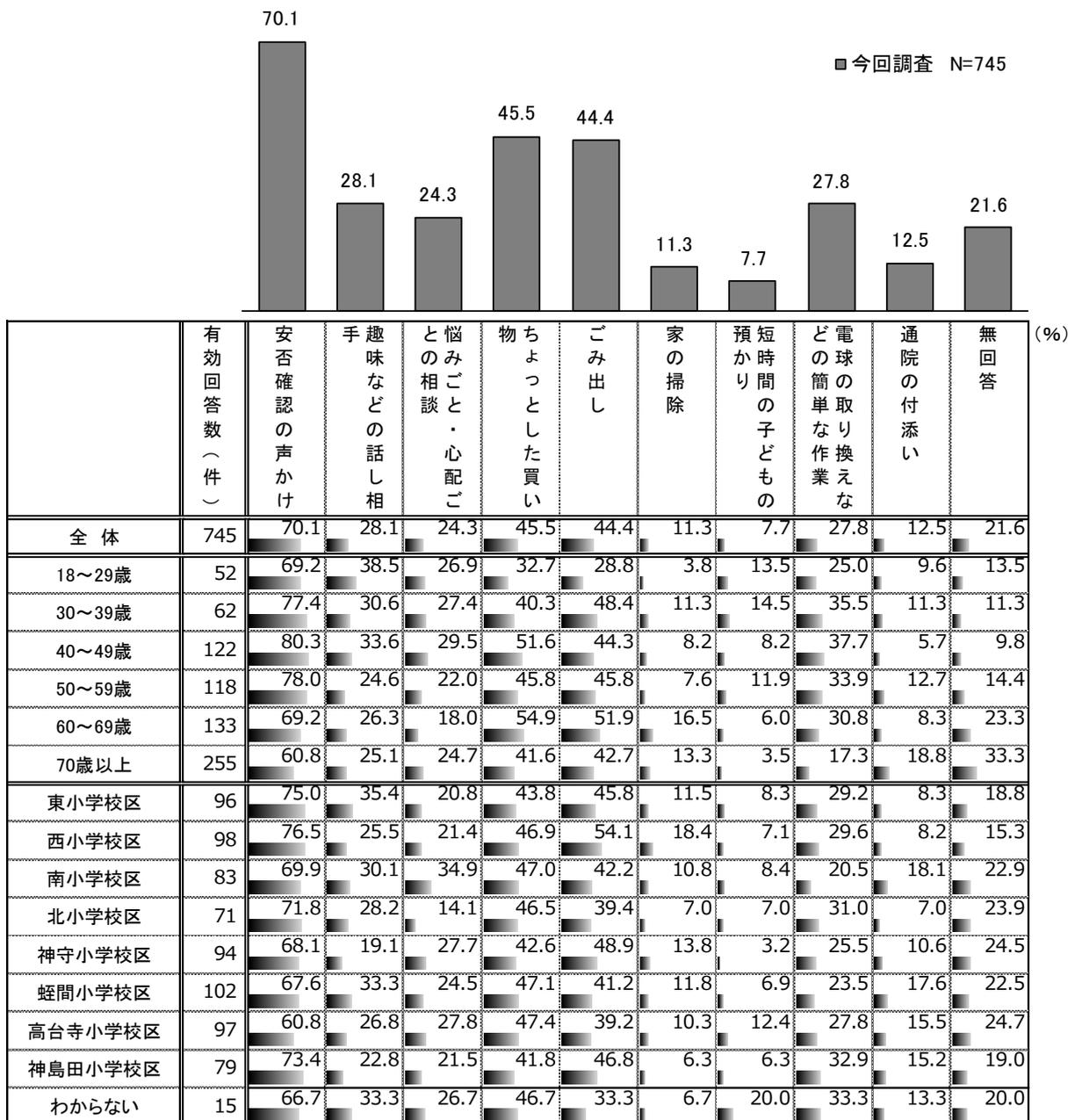


協力できること

近所に困っている人がいるとき、あなたが協力できることを聞いたところ、「安否確認の声かけ」は約7割と最も多く、以下「ちょっとした買い物」、「ごみ出し」となっています。「安否確認の声かけ」は特に40代で8割を超えて協力の意向が強くなっています。そのほか「趣味などの話し相手」は18～29歳が最も多く、約4割の人が協力できると答えています。(図表26)このように年代によって協力できることが違うため、支援の内容によって、年代を加味しながら協力を依頼することが必要と考えられます。

現在必要とする支援ニーズや将来のニーズをふまえて、要支援者と支援者とのマッチングが重要となります。その前提として、協力したいという人をいかに増やすかが重要であり、SNS*の活用や有償ボランティアの導入等の参加者増加策の検討が必要となります。

図表 26 近所に困っている人がいるとき、あなたが協力できること



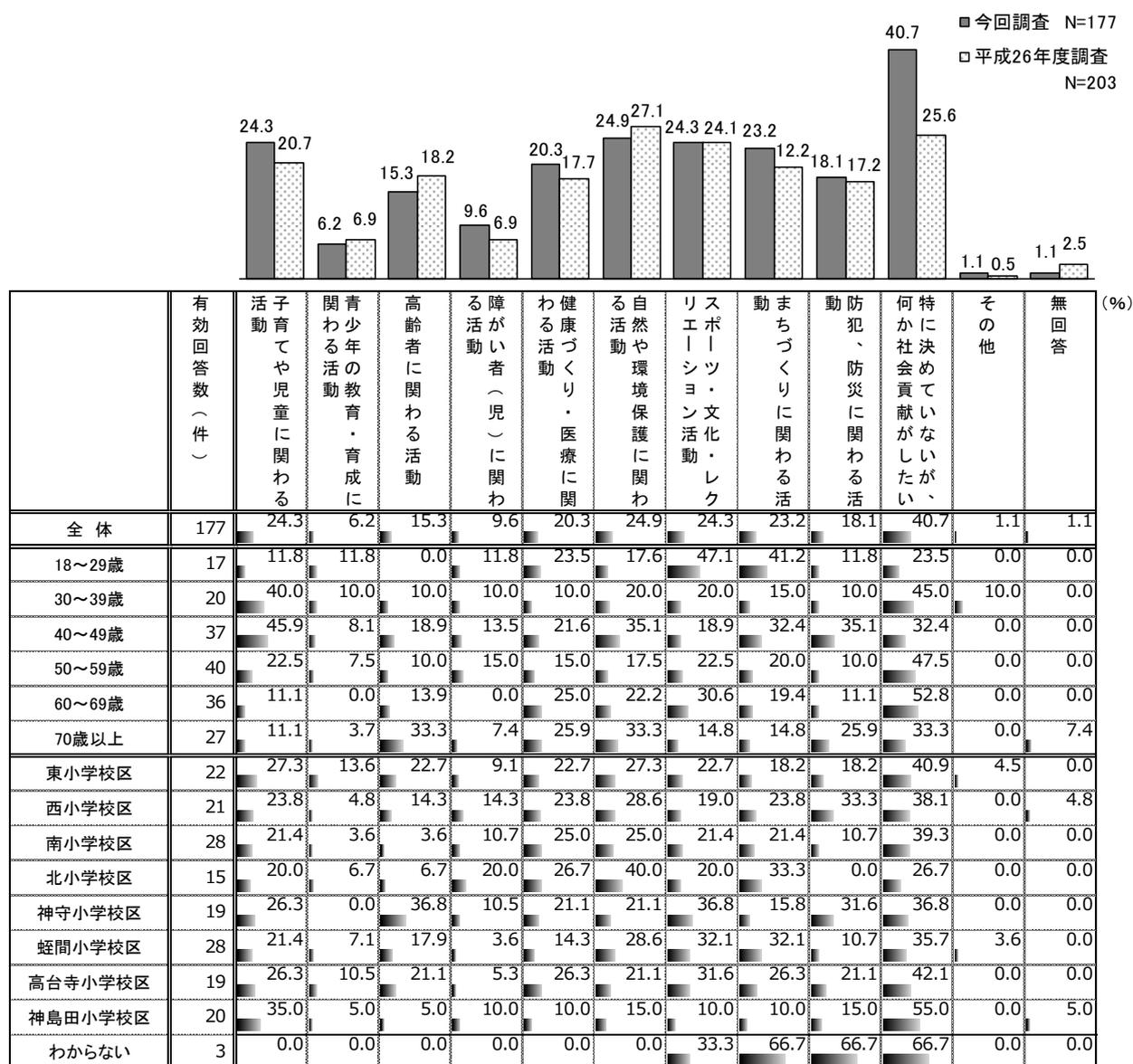
ボランティア活動

「団体に属して活動している人」、「個人で活動している人」、「現在は活動していないが、過去に活動したことがある人」を合わせた「ボランティア活動経験者」は約2割となっています。地区別では神守小学校区と高台寺小学校区がそれぞれ約3割と多くなっています。

「ボランティア活動経験者」の活動内容として「防犯、防災に関わる活動」が26.1%と最も多く、以下「子育てや児童に関わる活動」、「高齢者に関わる活動」となっています。

ボランティアについて、「活動したことがないが、今後活動したい」と答えた人に「今後どのようなボランティアに参加したいか」聞いたところ、「特に決めていないが、何か社会貢献がしたい」が40.7%と最も多く、以下「自然や環境保護に関わる活動」、「子育てや児童に関わる活動」、「スポーツ・文化・レクリエーション活動」となっています。「特に決めていないが、何か社会貢献がしたい」という回答は前回調査と比較して、15ポイント程度増加しており、社会貢献に対する意識の高まりがうかがえます。(図表27)

図表 27 「活動したことがないが、今後活動したい」と答えた人の参加したい活動



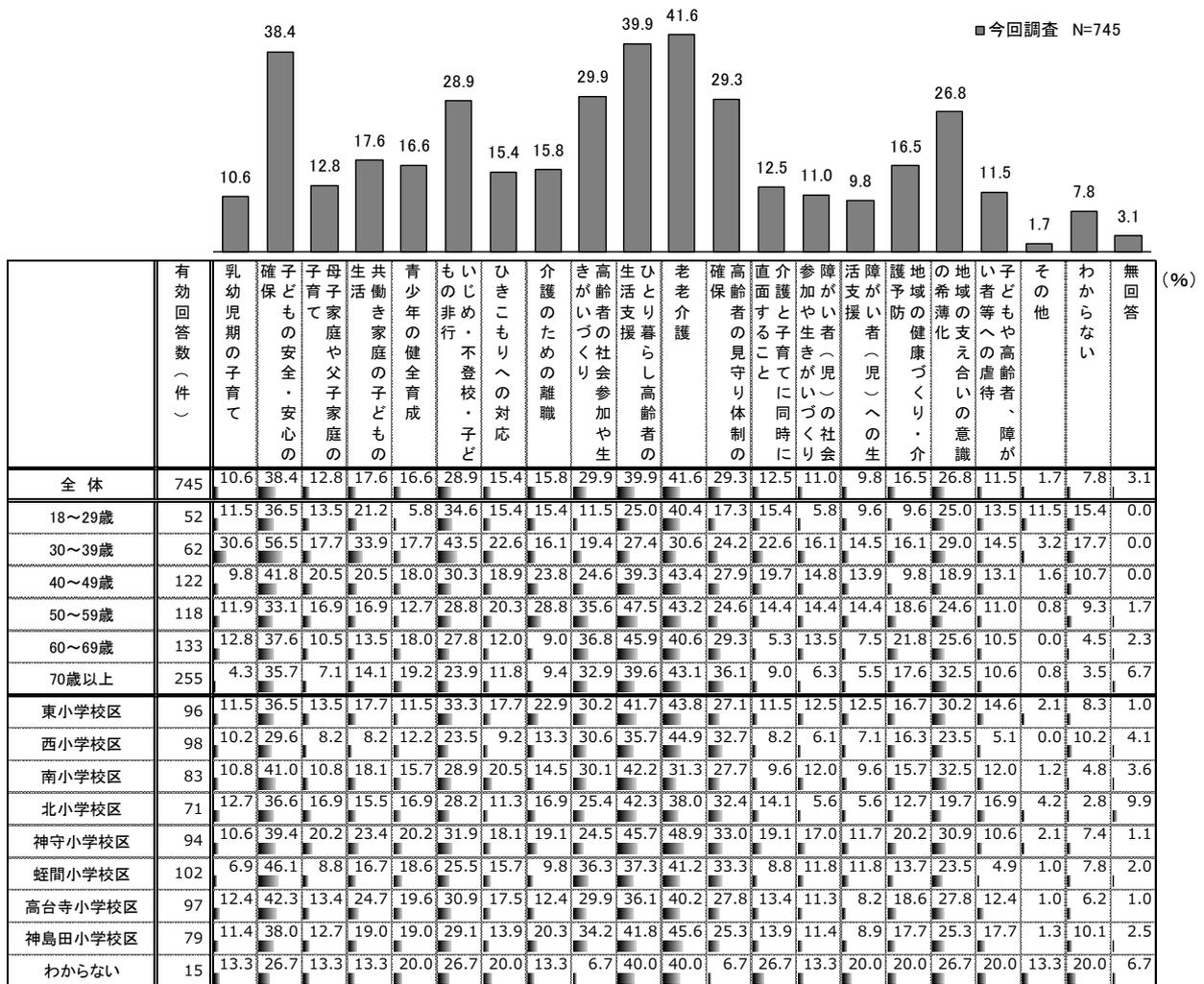
地域の課題

「地域の課題」については、「老老介護」が41.6%と最も多く、以下「ひとり暮らし高齢者の生活支援」、「子どもの安全・安心の確保」となっています。(図表 28)

各年代で最も多いものは18～29歳、40代、70代以上では「老老介護」、30代では「子どもの安全・安心の確保」、50代、60代では「ひとり暮らし高齢者の生活支援」となっています。

各小学校区で最も多いものは東小学校区、西小学校区、神守小学校区、神島田小学校区で「老老介護」、南小学校区、北小学校区で「ひとり暮らし高齢者の生活支援」、蛭間小学校区、高台寺小学校区で「子どもの安全・安心の確保」となっています。

図表 28 地域の課題



民生委員・児童委員、社会福祉協議会について

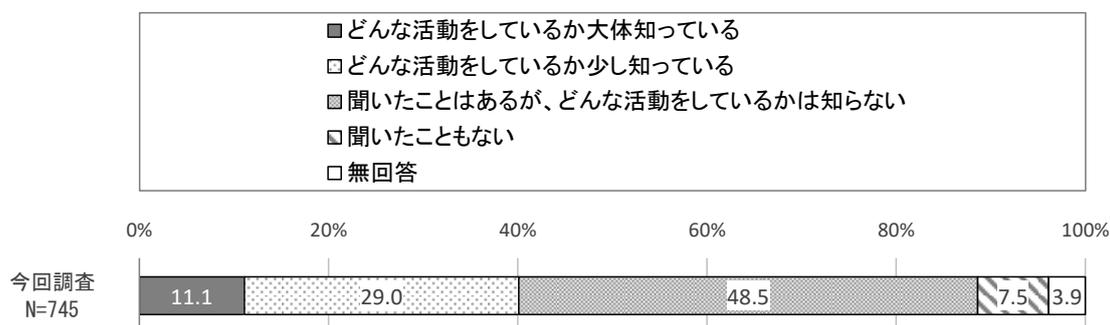
民生委員・児童委員については、「聞いたことはあるが、どんな活動をしているかは知らない」が48.5%と最も多く、以下「どんな活動をしているか少し知っている」、「どんな活動をしているか大体知っている」となっています。(図表 29) また、年齢に比例して「どんな活動をしているか少し知っている」と「どんな活動をしているか大体知っている」を合わせた“活動について知っている人”が増加し、70歳以上では約5割を占めています。

社会福祉協議会については、「聞いたことはあるが、どんな活動をしているかは知らない」が48.3%と最も多く、以下「どんな活動をしているか少し知っている」、「聞いたこともない」となっています。(図表 30) また、年齢に比例して「どんな活動をしているか少し知っている」と「どんな活動をしているか大体知っている」を合わせた“活動について知っている人”が増加し、60代では約4割を占めています。

民生委員・児童委員、社会福祉協議会ともに「聞いたことはあるが、どんな活動をしているかは知らない」人が約5割を占めていることから、今後、活動や事業の内容を周知し、相談や支援の必要な人が活用できるようにする必要があります。

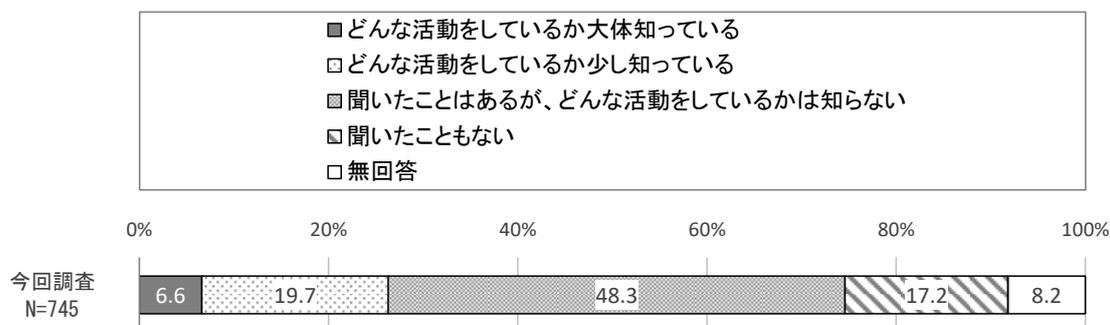
〈民生委員・児童委員の認知度〉

図表 29 民生委員・児童委員についての認知度



〈津島市社会福祉協議会の認知度〉

図表 30 津島市社会福祉協議会の認知度

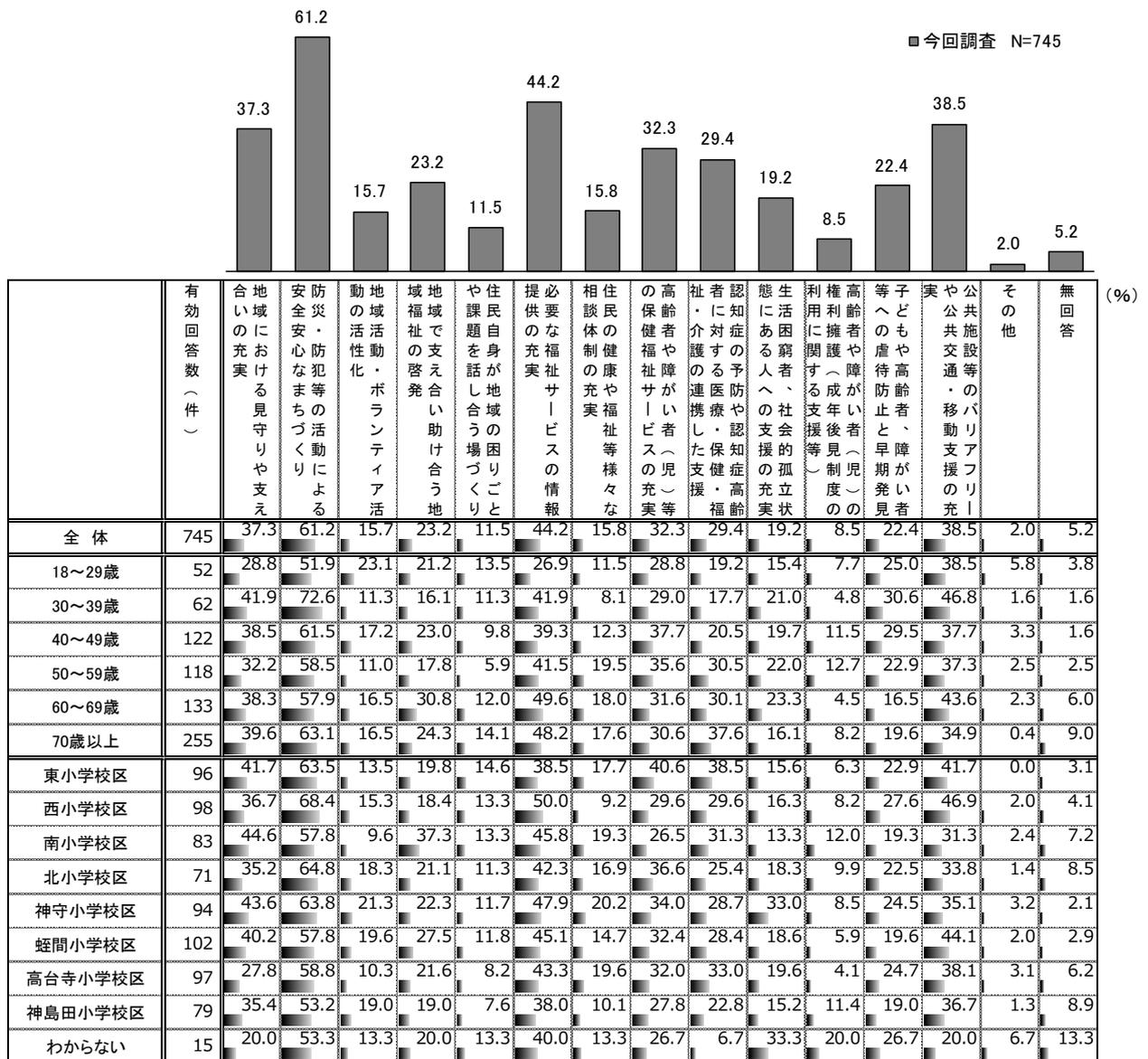


市の福祉施策等について

「市が力を入れて取り組むべきこと」は、「防災・防犯等の活動による安全安心なまちづくり」が61.2%と最も多く、以下「必要な福祉サービスの情報提供の充実」、「公共施設等のバリアフリーや公共交通・移動支援の充実」となっています。(図表31)

数ある施策の中で「防災・防犯等の活動による安全安心なまちづくり」はすべての年代、小学校区で最も支持されていることから、本市の最重要施策と考えられます。

図表31 市が力を入れて取り組むべきこと



2 団体アンケート・ヒアリング

保育所・幼稚園・認定こども園、小・中学校や民生委員・児童委員、福祉関係事業者等に、前回の計画策定時に実施した調査で挙げられた地域福祉の課題が、この5年間でどのように変化したのかを、「①良くなった、②変わらない、③悪くなった、④わからない」の4段階で評価していただきました。結果は次のとおりです。

なお、いただいたご意見は原則として原文のまま掲載しています。

また、評価が0件だった項目については掲載を省略しています。

・実施期間：令和元年10月9日から10月31日

(1) 保育所・幼稚園・認定こども園

1. 登下校の安全確保について

◆ 平成27年度に実施したアンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋 ◆

・園前の道路が狭く、園児、保護者が安全に通行できるようにしてほしい 等

◆ 平成27年度に挙げられた地域福祉の課題に対する令和元年度での評価 ◆

評価	件数	評価の理由（主な意見）
①良くなった	3件	・園の前の道路が一方通行になり、安全対策がされた
②変わらない	6件	・道路標示、横断歩道、用水路フェンスの状況は変わらない
③悪くなった	1件	・園前の道路は道幅が狭いがスピードを出す事が多い
④わからない	3件	・自分の園周辺以外の変化を把握していないので分からない

2. 放課後の居場所確保について

◆ 平成27年度に実施したアンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋 ◆

・地域の公園が少ないため、子どもが遊んだり走ったりすることができない 等

◆ 平成27年度に挙げられた地域福祉の課題に対する令和元年度での評価 ◆

評価	件数	評価の理由（主な意見）
②変わらない	7件	・環境に変化がない
④わからない	7件	・学童が小学校内にできた所に関しては、安全面を考えると良くなったと思うが、実際の現状・問題点が分からないので、答えにくい

3. 地域ぐるみの子育て支援について

◆ 平成 27 年度に実施したアンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋 ◆

- ・母子家庭など子育てに不安を持っている母親への支援 等

◆ 平成 27 年度に挙げられた地域福祉の課題に対する令和元年度での評価 ◆

評価	件数	評価の理由（主な意見）
①良くなった	8件	・子育て世代包括支援センターができ、横のつながりが強化されたと思う
②変わらない	4件	・園と児童相談所との間で虐待に関して気になる事について、連絡を取り合う事は多くはなったが、地域ぐるみとなるとまだ課題は続いているように思う
③悪くなった	1件	・幼稚園を利用している子の一時預かり保育利用が増加し、未就園利用の子が利用できない日が出てきている

4. 子ども・子育て支援の仕組みづくりについて

◆ 平成 27 年度に実施したアンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋 ◆

- ・子どもの医療費負担を減らしてほしいという保護者の声が多い 等

◆ 平成 27 年度に挙げられた地域福祉の課題に対する令和元年度での評価 ◆

評価	件数	評価の理由（主な意見）
①良くなった	9件	・医療費無償化（中3まで）、保育料無償化、子育て世代への負担減となった
②変わらない	2件	・この問題点については今後も変わらず、課題となってくると思う。年々、家庭環境も変わり、保護者の考え方等にも変化が見られる為
③悪くなった	2件	・療育との併用が本来望ましい子が、入所により保育園一本になってしまうケースがある
④わからない	1件	・医療費負担は少なくなったが、市民病院の出産の受入れがなくなった事に困ったという声がある

5. 障がい者への支援体制について

◆ 平成 27 年度に実施したアンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋 ◆

- ・障がい児の保育受入に関して、職員配置が十分でない（乳児等加配対象の見直し） 等

◆ 平成 27 年度に挙げられた地域福祉の課題に対する令和元年度での評価 ◆

評価	件数	評価の理由（主な意見）
①良くなった	5件	・津島市特別支援教育連絡会が年 2 回あり、小中高の先生方との連携の場が設けられているのは、直接話ができるので良い
②変わらない	8件	・障がい児の保育受入に関する職員配置に進展がない
③悪くなった	1件	・対象児または対象となる可能性があるとわかって、受入れされない所があると聞く

6. 外国人への理解促進と多文化共生*の推進について

◆ 平成27年度に実施したアンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋 ◆

- ・外国籍の人が増加しており、伝達を行うには個別対応が必要

◆ 平成27年度に挙げられた地域福祉の課題に対する令和元年度での評価 ◆

評価	件数	評価の理由（主な意見）
①良くなった	1件	・「中国語等」の保育園、幼稚園に必要なコミュニケーション訳語集があり、教育委員会に資料提供させていただいたのでスモールステップとして進んでいると思う
②変わらない	6件	・外国籍の方への理解は進んでいると思うが、市役所に通訳できる職員の配置がなく説明するとき困難を感じる
③悪くなった	1件	・うまく伝わらない事が多く、書類など書き直しが多い
④わからない	6件	・外国人への伝達は、伝わる方法を試行錯誤しながら行っている

7. 災害や犯罪に強い安全安心な環境づくりについて

◆ 平成27年度に実施したアンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋 ◆

- ・保育所が市の避難所であるが、地域と協力した訓練ができていない 等

◆ 平成27年度に挙げられた地域福祉の課題に対する令和元年度での評価 ◆

評価	件数	評価の理由（主な意見）
①良くなった	4件	・市と協定を結んだ事業所が増えている。地域コミュニティや中学校と連携した避難訓練を行う事ができた。その上で、やはり多数園児を連れての避難は難しい
②変わらない	6件	・自園での避難訓練は定期的に行ってはいるものの、地域と協力して行うような訓練ができていないのが現状
③悪くなった	1件	※記入なし
④わからない	3件	・課題の内容が現在も思う所がある。犯罪に関しては、市から FAX が届くが、場所が近いともう少し早く知らせたいと思う時もある

(2) 小学校・中学校

1. 福祉教育の充実について

◆ 平成 27 年度に実施したアンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋 ◆

- ・中学生が年間を通して、福祉施設と交流する学習がない

◆ 平成 27 年度に挙げられた地域福祉の課題に対する令和元年度での評価 ◆

評価	件数	評価の理由（主な意見）
①良くなった	4 件	・福祉教育を半日にわたり一人 2 講座受け、充実した計画としている。認知症サポーター等、新たな取組も実施されて充実を感じる
②変わらない	10 件	・交流の機会は設定されていると思うが、年間を通しての継続は難しい
③悪くなった	1 件	・学校の行事の精選により、事業が縮小傾向になりつつある
④わからない	7 件	・現在は福祉教育が中心となる行事になっている

2. 登下校の安全確保について

◆ 平成 27 年度に実施したアンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋 ◆

- ・学校までの友だちと歩く体力不足等から、通学団での登校がうまくできない子どもが増えている 等

◆ 平成 27 年度に挙げられた地域福祉の課題に対する令和元年度での評価 ◆

評価	件数	評価の理由（主な意見）
①良くなった	9 件	・登下校でのトラブルは以前と同様あるが、防犯対策の面では良くなっている
②変わらない	12 件	・グリーンベルトは設置されたが、道幅そのものがせまい
④わからない	1 件	・小学校の内容のため回答できない

3. 放課後の居場所確保について

◆ 平成 27 年度に実施したアンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋 ◆

- ・「学童保育」や「放課後子ども教室」が保護者から利用しづらいとの声がある 等

◆ 平成 27 年度に挙げられた地域福祉の課題に対する令和元年度での評価 ◆

評価	件数	評価の理由（主な意見）
①良くなった	9 件	・春と夏の居場所づくりも始まり、幅が増えたように感じる
②変わらない	6 件	・遊び場所が少ない
④わからない	7 件	・中学校は部活動があるため、該当しない

4. 地域ぐるみの子育て支援について

◆ 平成 27 年度に実施したアンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋 ◆

・幼・保・小・中へ通う子どものいる家庭に対して、状況に応じた保護者支援が必要 等

◆ 平成 27 年度に挙げられた地域福祉の課題に対する令和元年度での評価 ◆

評価	件数	評価の理由（主な意見）
①良くなった	1 件	・地域学校協働本部の活動が活性化され、保護者や卒業生の保護者が中学校へ足を運んでくれている
②変わらない	13 件	・地域の支援は向上しているが、地域に閉鎖的な家庭も増えている
④わからない	8 件	・連携がとれているかどうかわからない

5. 学校教育施設の人材強化・学校施設の改善について

◆ 平成 27 年度に実施したアンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋 ◆

・特別な支援を要する児童生徒増加のため、市の補助員を配置しているが対応しきれない 等

◆ 平成 27 年度に挙げられた地域福祉の課題に対する令和元年度での評価 ◆

評価	件数	評価の理由（主な意見）
①良くなった	2 件	・エアコンが教室に設置され、暑い時期でも快適な環境で取り組めるようになった
②変わらない	15 件	・人力的、経済的不足の問題
③悪くなった	4 件	・特別な支援を要する児童生徒増加のため、市の補助員を配置しているが対応しきれない
④わからない	1 件	・市の補助員を増やしてもらえるとありがたい

6. 障がい者・保護者への支援体制の強化について

◆ 平成 27 年度に実施したアンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋 ◆

・専門機関との相談・連携体制の充実 等

◆ 平成 27 年度に挙げられた地域福祉の課題に対する令和元年度での評価 ◆

評価	件数	評価の理由（主な意見）
①良くなった	6 件	・市特別支援教育相談員のおかげで体制整備や個への対応が進んでいる
②変わらない	10 件	・専門機関との相談連携体制が進んでいない
④わからない	6 件	・教員も保護者も、相談窓口がもっと多く必要と感じる

7. 外国人への理解促進と多文化共生の推進について

- ◆ 平成 27 年度に実施したアンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋 ◆
 - ・言葉の問題により保護者の世話が十分行き届いていない外国籍の子どもがいる 等
- ◆ 平成 27 年度に挙げられた地域福祉の課題に対する令和元年度での評価 ◆

評価	件数	評価の理由（主な意見）
①良くなった	8 件	・日本語支援員等の配置があり、助かっている
②変わらない	12 件	・日本語の指導が必要な外国人の数が増えているが、支援員等の配慮がなされていない
③悪くなった	1 件	・学習用具がそろわないことや必要な連絡が伝えられないことがある
④わからない	1 件	※記入無し

8. 災害や犯罪に強い安全安心な環境づくりについて

- ◆ 平成 27 年度に実施したアンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋 ◆
 - ・市内の公共施設でバリアフリーが進んでいない場合、避難所になった際困る人もいる 等
- ◆ 平成 27 年度に挙げられた地域福祉の課題に対する令和元年度での評価 ◆

評価	件数	評価の理由（主な意見）
①良くなった	5 件	・昨年度、通学路の一部にグリーンベルトが設置された
②変わらない	13 件	・本校は体育館が避難所だが、トイレ等全くバリアフリーではない
④わからない	4 件	・整備には時間がかかり、優先順位があり、次々と老朽化していく為、整備しなければならない箇所はなくなる

(3) 高齢者支援事業者

1. 情報提供と収集について

- ◆ 平成 27 年度に実施したアンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋 ◆
 - ・緊急通知システム、消防署への登録等のサービスが携帯で利用できない 等
- ◆ 平成 27 年度に挙げられた地域福祉の課題に対する令和元年度での評価 ◆

評価	件数	評価の理由（主な意見）
①良くなった	2 件	・メール等で情報が入りやすくなった
②変わらない	9 件	・独居の方や家族が無関心なのか、情報がないのかわからない
③悪くなった	1 件	・携帯からはできない。固定電話貸し出しがなくなったので困っている
④わからない	16 件	・地域によるのかもしれないが、コミュニティ等から地域情報を発信している。戸別配布もしており、情報を得る手段がないとは言い切れない

2. 移動手段の確保、経費の支援について

◆ 平成 27 年度に実施したアンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋 ◆

- ・ タクシー以外の交通手段がなく、買い物に困っている 等

◆ 平成 27 年度に挙げられた地域福祉の課題に対する令和元年度での評価 ◆

評価	件数	評価の理由（主な意見）
①良くなった	2 件	・ 買い物の手段に関しては、スーパーの宅配サービスが開始されている
②変わらない	20 件	・ 移動手段がない方の支援が欲しい（買い物・通院等）
③悪くなった	1 件	・ タクシーの運転手の人も減っており、また自費サービスができる事業所も減っており、対応手段、人が減っているから
④わからない	5 件	・ まだ実態は分からないが、自己負担の部分が増えている事は感じる

3. 地域における交流、支援体制の整備について

◆ 平成 27 年度に実施したアンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋 ◆

- ・ 家にひきこもりがちでサロンが苦手な人が人との交流を求める場合の支援 等

◆ 平成 27 年度に挙げられた地域福祉の課題に対する令和元年度での評価 ◆

評価	件数	評価の理由（主な意見）
①良くなった	4 件	・ サロン等の活動が活発になってきた
②変わらない	16 件	・ 行きたい人は行くし、行かない人は近所でも行かない。アクティブシニアの人が、何をしたいか地域が噛み合っていない事が多い
③悪くなった	2 件	・ 本人に必要なサービスが受けられない人が多くなった気がする（介護区分が要支援になった為）
④わからない	6 件	・ まだ内容が分からない

4. 高齢者支援制度・サービスの改善と充実について

◆ 平成 27 年度に実施したアンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋 ◆

- ・ 介護保険以外のインフォーマルサービスが充実していない 等

◆ 平成 27 年度に挙げられた地域福祉の課題に対する令和元年度での評価 ◆

評価	件数	評価の理由（主な意見）
①良くなった	1 件	・ 社会資源がリスト化（整理）された事はよかった
②変わらない	14 件	・ インフォーマルサービスが充実していない
③悪くなった	1 件	・ 障がいからの切り替わりで、介護保険だと利用ができなかったりする
④わからない	10 件	・ 今後もインフォーマルサービスだけでなく、そこに誰もが行ける様な整備が必要

5. 高齢者支援施設の拡充について

◆ 平成 27 年度に実施したアンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋 ◆

- ・職員の人材確保が難しい

◆ 平成 27 年度に挙げられた地域福祉の課題に対する令和元年度での評価 ◆

評価	件数	評価の理由（主な意見）
②変わらない	8 件	・人材確保は変わらず難しい。横のつながりがあると良いと思う
③悪くなった	11 件	・特に訪問介護の事業所で、人員不足でサービスを受けてもらえないケースがある ・退職される人が多い中、求職者は少なく、入職してもすぐ辞めてしまうため、人員の確保が難しく、企業の人材紹介等もあまりあてにできない
④わからない	7 件	・現状の福祉業界での給与では、良き人材は確保できない

6. 障がい者への支援体制の強化について

◆ 平成 27 年度に実施したアンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋 ◆

- ・早期発見と適切な支援が必要である

◆ 平成 27 年度に挙げられた地域福祉の課題に対する令和元年度での評価 ◆

評価	件数	評価の理由（主な意見）
①良くなった	1 件	・相談者は増加しており、相談支援体制が整ってきていると思われる
②変わらない	12 件	・もともとの障がい支援ができるケアマネジャー等が各地域で少なすぎる
④わからない	13 件	・チームによる適切な支援が必要だと思う

7. わかりやすい福祉情報の提供と相談・支援体制の充実について

◆ 平成 27 年度に実施したアンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋 ◆

- ・子育て中の親同士の交流がなく、相談機関が分からない

◆ 平成 27 年度に挙げられた地域福祉の課題に対する令和元年度での評価 ◆

評価	件数	評価の理由（主な意見）
①良くなった	2 件	・他機関との連携は多くなっている。困りごとの相談をうまく繋ぐ事ができている。子育て中の親同士の交流については、あまり把握できない
②変わらない	4 件	・広報や回覧板をもっと使って欲しい
④わからない	20 件	・上記事業での実績、係わりがない為

(4) 民生委員・児童委員

1. 世代や居住歴を超えた顔の見える関係づくりについて

◆ 平成 27 年度に実施したアンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋 ◆

- ・コミュニティイベントへの参加が低く、つながり不足 等

◆ 平成 27 年度に挙げられた地域福祉の課題に対する令和元年度での評価 ◆

評価	件数	評価の理由（主な意見）
①良くなった	17 件	・町内会、放課後児童クラブ、民生委員が常に連絡し合い、近所の人々とのつながりをつくっているから
②変わらない	45 件	・個人情報保護法の観点から、相手の事がわからない。高齢者が多くなり、地域活動が運営しづらくなって来ている
③悪くなった	9 件	・町内会組織の弱体化。（高齢化含む）広報ポスティングによる近隣住民の接触機会の減少。家庭中心主義に伴う、子ども会活動の弱体化
④わからない	8 件	・最近、住居が増え続け、どの様な人が住んでいるか把握できない

2. 高齢者の生活支援と生活の質の向上について

◆ 平成 27 年度に実施したアンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋 ◆

- ・高齢者の居場所、憩いの場が不足している 等

◆ 平成 27 年度に挙げられた地域福祉の課題に対する令和元年度での評価 ◆

評価	件数	評価の理由（主な意見）
①良くなった	17 件	・コミュニティ、社会福祉協議会、包括支援センターなどが、居場所づくりをはじめとしてさかんに活動しており、良くなったと思う ・地域包括支援センター等、市のサービスが充実してよくなってきたと思う
②変わらない	41 件	・町内会組織を活用した高齢者対策を行わないと、真に支援を必要とする人の対策にはならないと思う
③悪くなった	6 件	・近隣の八百屋さん等がどんどん無くなり、高齢者が買い物難民になっている。ひとり暮らし老人の増加に歯止めがきかず、孤立している
④わからない	15 件	・家族構成もわからないので、町内会としても何もできない

3. 地域ぐるみで子どもを見守り育てる体制づくりについて

◆ 平成 27 年度に実施したアンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋 ◆

- ・長期休暇中に学童保育に入れず困っている親がいる 等

◆ 平成 27 年度に挙げられた地域福祉の課題に対する令和元年度での評価 ◆

評価	件数	評価の理由（主な意見）
①良くなった	17 件	・子ども会、放課後児童クラブと一緒に活動するため、親の相談にのり見守りする人が増えたため
②変わらない	36 件	・地域で子どもを見守ろうという意識は出てきたように思うが、なかなか成果につながりにくい
③悪くなった	6 件	・子ども会もなくなってしまったので、学童の困っている事すら分からない
④わからない	20 件	・町内に子どもがいないから

4. 障がい者サポートと生活支援について

◆ 平成 27 年度に実施したアンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋 ◆

- ・障がい者の就労支援（卒業後就職できない人がひきこもりになる） 等

◆ 平成 27 年度に挙げられた地域福祉の課題に対する令和元年度での評価 ◆

評価	件数	評価の理由（主な意見）
①良くなった	4 件	・避難行動要支援者、支援体制について、各校区で検討されている
②変わらない	27 件	・障がい者のいる家庭があるのは把握してあるが、災害時要支援の登録がないので、どう対応していいのかわからない
③悪くなった	3 件	・障がい者の孤立が気になる。地域での障がい者の顔が見えない
④わからない	37 件	・民生委員として直接関わる事がないのでわからない。専門の分野につなげる事は、今後もしていく

5. 防災の取組について

◆ 平成 27 年度に実施したアンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋 ◆

- ・避難場所、行動マニュアルを市民に周知不足である 等

◆ 平成 27 年度に挙げられた地域福祉の課題に対する令和元年度での評価 ◆

評価	件数	評価の理由（主な意見）
①良くなった	19 件	・町内会で避難所の確認、防災訓練に参加したりして、班単位で非常時の対策ができているため
②変わらない	41 件	・町内会としての防災体制は、ほとんど構築されていない。町内会長も一年任期なので、何をしたらよいかかわからない状態である
③悪くなった	4 件	・自助、共助といわれるが、そういう関係性が把握できない
④わからない	10 件	・避難行動支援同意者名簿が配布されたが、今後は地区の自主防災、町内会、民生委員の連携と協力をどのようにはかり、実行していくかにかかっていると思う

6. 空き家、ゴミ対策について

◆ 平成 27 年度に実施したアンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋 ◆

- ・空き家住居が放置されている 等

◆ 平成 27 年度に挙げられた地域福祉の課題に対する令和元年度での評価 ◆

評価	件数	評価の理由（主な意見）
①良くなった	13 件	・空き家は取り壊され、住宅が建つようになった
②変わらない	38 件	・空き家の状況は市でも把握していると思われるが、雑草が大きくなると火災の不安もあり、近所の人が刈っている状況
③悪くなった	10 件	・空き家が年ごとに増えている ・ゴミの出し方が悪く、いつも収集されず袋が残っている
④わからない	13 件	・空き家で困っているという事を聞かない

7. 民生委員・児童委員の権限と活動について

◆ 平成 27 年度に実施したアンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋 ◆

- ・コミュニティと民生委員・児童委員の関係ができていない 等

◆ 平成 27 年度に挙げられた地域福祉の課題に対する令和元年度での評価 ◆

評価	件数	評価の理由（主な意見）
①良くなった	10 件	・コミュニティに民生委員・児童委員が中心となって福祉部会をつくり、活動している地域もある。民生委員の活躍の場が広がっているのでは
②変わらない	43 件	・ひとり暮らし要介護者の施設利用リスト等がないと状況把握できない為、登録者のみに対応するしかできない
③悪くなった	4 件	・コミュニティとの関わりが少ない
④わからない	15 件	・高齢者が施設入所したという情報が、民生委員に届くようにしてほしい。訪問したときに留守でも、理由が分からないと不安である

(5) 障がい福祉事業者

1. 新たなサービスを行う上での問題点や課題について

◆ 平成 26 年度※に実施したアンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋 ◆

- ・児童発達管理責任者の採用が難しい 等

◆ 平成 26 年度に挙げられた地域福祉の課題に対する令和元年度での評価 ◆

評価	件数	評価の理由（主な意見）
①良くなった	2 件	・生活介護のグループホームができるので、多少よくなったかと思う
②変わらない	8 件	・重度障がい者の受入れ事業所（生活介護）の不足は解消されていない
③悪くなった	3 件	・児童指導員の採用が難しい
④わからない	9 件	・比較できる情報を持っていない

※障がい福祉事業者へのアンケートは、平成 26 年度に実施した「第 4 期津島市障がい福祉計画策定のためのアンケート」で得られた意見を引用

2. 津島市において不足しているサービスについて

◆ 平成 26 年度に実施したアンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋 ◆

- ・グループホーム、短期入所、生活介護が圧倒的に少ない 等

◆ 平成 26 年度に挙げられた地域福祉の課題に対する令和元年度での評価 ◆

評価	件数	評価の理由（主な意見）
①良くなった	8 件	・就労関係事業所は増加してきているが、短期入所事業所の不足は継続している
②変わらない	3 件	・ニーズとしては増えている印象を受ける
③悪くなった	4 件	・ますます、同行援護が使えなくなった。ヘルパーさんの高齢化で対応できない。グループホームは増えたがすでに定員いっぱい
④わからない	7 件	・平成 26 年の際のアンケートに参加していない為、分からない

3. 地域移行、一般就労移行について

◆ 平成 26 年度に実施したアンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋 ◆

- ・就職先、受入先がない。受入後のサポート、継続していく支援が少ない 等

◆ 平成 26 年度に挙げられた地域福祉の課題に対する令和元年度での評価 ◆

評価	件数	評価の理由（主な意見）
①良くなった	3 件	・当ホームの利用者の大半が就労継続の A 型や B 型を利用しているが、相談員さんも含め、十分連携が取れている印象を持っている
②変わらない	8 件	・入所施設からの地域移行の拡大は家族の意向もあり、円滑に進んでいるとは言いがたい
③悪くなった	1 件	・悪くなったとしか言いようがない
④わからない	10 件	・平成 26 年の際のアンケートに参加していない為、分からない

4. 他の団体との連携について

◆ 平成 26 年度に実施したアンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋 ◆

- ・同じ障がい児サービス事業所同士の交流が少ない 等

◆ 平成 26 年度に挙げられた地域福祉の課題に対する令和元年度での評価 ◆

評価	件数	評価の理由（主な意見）
①良くなった	8 件	・学校、幼稚園、保育園との連携、情報共有の為、担当者会議が定期的に行われるようになった
②変わらない	4 件	・以前を知らないが、事業所同士の交流はあまりないように思える
③悪くなった	1 件	・中学校との関わりが薄い
④わからない	7 件	・判断できない

5. 障がい者を取り巻く地域社会のあり方について

◆ 平成 26 年度に実施したアンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋 ◆

- ・障がい者が地域で生活するためにグループホームの充実が望まれる 等

◆ 平成 26 年度に挙げられた地域福祉の課題に対する令和元年度での評価 ◆

評価	件数	評価の理由（主な意見）
①良くなった	6 件	・グループホームが増えてきているので良いと思う
②変わらない	5 件	・地域に対し、障がい福祉に関する周知や啓蒙に不足を感じる
③悪くなった	1 件	・行政がまず、自らの仕事を理解すべき
④わからない	8 件	・平成 26 年の際のアンケートに参加していない為、分からない

6. 津島市の福祉施策に関する要望について

◆ 平成 26 年度に実施したアンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋 ◆

- ・地域生活支援事業について、自治体間格差を解消してほしい 等

◆ 平成 26 年度に挙げられた地域福祉の課題に対する令和元年度での評価 ◆

評価	件数	評価の理由（主な意見）
①良くなった	1 件	・児童について、サービス提供ができる事業所が増えた
②変わらない	7 件	・地域生活支援事業は、まだまだ他市より受入れが悪い
③悪くなった	3 件	・現在利用している事業所を辞めて、他の事業所を利用したいが、定員の問題で断られた
④わからない	9 件	・何が変わったのか分からない

3 地区懇談会

地域福祉に関わる現状と課題を把握するため、令和2年1月から2月にかけて8小学校区で地区懇談会を開催しました。挙げられた課題は次のとおりです。

なお、いただいたご意見は原則として原文のまま掲載しています。

(1) 地域のつながり・コミュニケーション

課題	ご意見
地域の関係の希薄化	<ul style="list-style-type: none">・ 地域の人々と交流する場がない・ 引っ越してきた人が孤立している（閉じこもり）・ 近所付き合いが減少しており、地域のことに無関心な人が多い・ 昔ながらの横のつながりが薄くなっている・ 異年齢の交流がない（高齢者と小学生、高齢者と若年層等）・ 子育て世代（親）とシルバー世代の方の交流がない
町内会のつながりのなさ	<ul style="list-style-type: none">・ 町内会は高齢者や防災の問題ばかりで、若年層への活動が少ない・ かわら版を含めポスター、回覧等情報共有の活用が必要である・ 高齢者世帯が町内代表をやっており、機能していない・ 町内会役員のなり手がなく、存続が危ぶまれている・ 高齢者が行事に参加したがるらない・ 子ども達の町内行事への参加が少ない・ 高齢化による町内行事の取り止めが起こっている・ リーダー的存在になる人が少ない
コミュニケーション不足によるマナーの低下	<ul style="list-style-type: none">・ ゴミ捨て場が違う場所の人がゴミを捨てていく（マナーが悪い）・ スマホを使っている人のマナーが悪い・ 中高生の自転車マナーが悪い・ ペットのマナーが良くない・ ごみ出しの時間を守らない・ ゴミ出しのルールを外国人が理解していない・ 外国人が多くなり、ごみの出し方の説明が必要である

(2) 地域活動

課題	ご意見
地域活動の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・年間色々あるが、コミュニティの行事が住民に伝わっていない ・コミュニティ・自主防災会等イベントの参加者は同じ顔ぶれが多い ・サロン等気軽に集まれる場所をもっと多くする ・町内で高齢化が進んでおり、見守りネットワークが必要である ・老人会行事へのヤングシニアの参加がない ・老人クラブへの加入促進 ・町内会役員が少なく参加者が少ない。また町内会の役職等後継者がいない
個人情報への壁	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の問題があり、どんな人が住んでいるのかわからない ・個人情報の壁があり、要支援者が災害時どこにいるのかわからない ・個人情報保護が地域のコミュニティづくりの障害になっている

(3) 高齢者・障がいのある人

課題	ご意見
移動手段の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢になって足が弱ったとき、足の確保が不安である
一人暮らし高齢者の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らし老人の安否確認・緊急時対応が必要である ・地域では一人暮らしが6割を占めるほど多い ・一人暮らし高齢者でサロン等に参加できる人は良いが、できない人は地域と関わりがない ・高齢者一人暮らしの老人を対象とした日々の生活支援。買い物等
高齢化への不安	<ul style="list-style-type: none"> ・団地全体の高齢化が進んでいる ・高齢者のお買い物の場が無い ・高齢者だけの家では経済的に苦しく趣味や活動ができない

(4) 子ども

課題	ご意見
子どもの減少 子ども会の減少	<ul style="list-style-type: none"> ・親の役員への不参加 ・子どもが少なく、子ども会が成り立たない ・子ども会に加入しない
遊ぶ場所等がない	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの遊び場が全くない ・公園の遊具がない ・親が休憩できる場所がない
子どもの居場所がない	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童、生徒及び保護者への支援がない ・ひきこもりの実態把握と家族への支援がない ・長期休暇中の子どもの居場所がない

(5) 地域の安全・安心

課題	ご意見
防災の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・防災が重要だが、地域防災会づくりは地域任せ（マニュアルもない） ・住民の防災意識が低い ・災害弱者に対する防災会での支援に関して、人材が不足している ・防災訓練を含む避難経路等の作成ができていない
災害時の避難	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の高齢者の安全な避難が困難 ・災害時に対応ができる人がいない ・防災訓練での参加者が高齢化している
防犯の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・幹線道路以外の街灯が少ない ・防犯灯が少ない ・ソーシャルゲームをやっている人達の路上駐車が増えている

(6) その他

課題	ご意見
公共交通の不便	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいバスのルートを変えて、もっと利用しやすくしてほしい ・バスのルートがわかりにくい ・ふれあいバスの停留所・時間等改善して欲しい（無料の市町村もある）
道路での不安・不満	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行者にやさしくなく、散歩もしづらい ・トラック等大型車の通行が増え、安全面が不安
市役所の対応・要望	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所に出した嘆願書に対する返答が無い ・相談窓口がわからない ・一般の人から見ると社協、市の各活動がバラバラに見える
環境問題	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの集積場所少なく、一日で出るゴミの量が多い場所がある ・ゴミ不法投棄がある
空き家問題	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家が多く、連絡が取れない。また、建物が壊れる等、管理が心配
コミュニティ 推進協議会の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティと各種団体がばらばらに動いており、整理できないか ・子どもと大人が知りあうコミュニティとなっていない
買物環境の悪化	<ul style="list-style-type: none"> ・近くのスーパーが撤退し、買い物に苦勞している方が出てきた
公園の維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ・夏の公園は草がすごく生えている。せつかくある公園が遊べない

4 アンケート・地区懇談会等からうかがえる計画の課題

(1) 地域コミュニティづくり、意識の啓発

【現状・問題点】

- ・近所付き合いがなくなってきており、地域のことに無関心な人が多い
- ・地域で交流する場所が少ない
- ・町内会への未加入
- ・町内会委員の高齢化、担い手が少ない
- ・日本人、外国人含めてゴミ出しのマナーが悪い人がいる 等

→地域コミュニティづくりは地域福祉の基盤となるものですが、市内のどの地区でも同様につながりの希薄さ、地域での交流の少なさが指摘されています。また、アンケート調査では10～30代の若い世代ではあいさつはするもののそれ以上の関係づくりは難しい状況がうかがえます。さらには、新型コロナウイルス感染症により、感染拡大を防ぐためには人との接触を減らすことが求められており、地域の交流がますます減少しています。国の求める「新しい生活様式」の中で、地域でどのように、関心を高め、参加を促進し、支えあうコミュニティづくりを進めていくかが大きな課題となります。

【今後の方策】

- ・地域福祉の意識啓発
- ・地域福祉活動の情報提供の充実
- ・福祉教育の充実 等

(2) 地域活動の活性化・担い手づくり

【現状・問題点】

- ・地域活動は若者の参加が少なく、高齢化により活動できない人も増えている
- ・老人クラブ、町内会、子ども会等の役員のなり手が少ない
- ・地域で活動するにあたって、個人情報保護により、各家庭の状況把握が難しい
- ・各種団体のリーダーの養成が難しい

→地域活動を継続するためには、活動者の高齢化やリーダーの養成、参加の減少等活動の危機的な状況がうかがえます。また、地区懇談会では、コミュニティ推進協議会等の行事に対する地域住民の参加意識が低く、新たな参加者が増えにくいという課題が挙げられています。今後、ますます高齢化が進み、活動者自体が減少することが予測されるなかで、地域活動を活性化するためには、若い世代や定年を迎えた人をどれだけ取り込むかが大きな課題となります。また、アンケート調査では、近所に困っている人がいるときに協力できることについて、7割の人が「安否確認の声かけ」ができると答えています。こうした協

力したいという人をいかに活動に結びつけるかが課題となります。

【今後の方策】

- ・地域福祉活動の活性化
- ・地区社会福祉協議会活動の支援
- ・コミュニティ推進協議会との連携
- ・ボランティア活動支援 等

（３）高齢者・障がいのある人への支援

【現状・問題点】

- ・ひとり暮らし高齢者が増加しており、生活への支援が必要である
- ・高齢者や障がいのある人等の安否確認が難しい
- ・市内スーパーの撤退により、買い物に困る高齢者等が増加している

→高齢者や障がいのある人が住み慣れた地域で安心して暮らすためには、公的な保健福祉サービスや生活支援サービス、権利擁護*の取組など、その人に応じた支援が提供できることが必要であり、地域での見守りネットワークなど安否確認の体制づくりは今後ますます欠かせない支援の一つであると考えられます。また、近所のスーパーがなくなり、買い物が不便になった等の個別的な困りごとを聞き、地域の住民の協力を得ながら生活を支援していく仕組みづくりが重要となっています。サロンへの不参加など地域とのつながりがない高齢者等について、地域での見守り体制を構築していく必要があります。

【今後の方策】

- ・保健福祉サービスの充実
- ・相談支援の充実
- ・権利擁護の推進
- ・生活支援の充実
- ・サロン等地域活動の充実 等

（４）子ども・子育て支援、子どもの日々の安全・安心

【現状・問題点】

- ・少子化により子ども会の維持が難しい
- ・子どもの居場所や遊び場が少ない
- ・不登校児童・生徒及び保護者への支援が必要である
- ・登下校時の安全確保が必要である

→少子化の進行は社会の維持に影響を与える事態であり、今まで当然のように行われてきた子ども会活動や祭りの開催などに大きな支障をもたらしています。地区懇談会での現状の

評価では、子どもの減少に加えて、子どもがいても子ども会に入会しない世帯があるという指摘もありました。

アンケート調査では、「地域の子どもへの見守りと声かけ」、「子どもの安全のための地域のパトロール」、「子ども同士が遊べる機会の充実」が求められています。同じくアンケート調査では、地域の課題として「子どもの安全・安心の確保」「いじめ・不登校・子どもの非行」が挙げられていました。これらの様々な問題は、家庭、学校、地域等が連携し、子どもに寄り添い、対応していく必要があります。

【今後の方策】

- ・子ども・子育て支援の充実
- ・子どもの安全・安心の確保
- ・子どもの見守りネットワークの充実 等

（５）災害時の支援体制の構築、防犯に関する啓発活動の充実

【現状・問題点】

- ・防災訓練に参加する人が少ない
- ・高齢者等の災害時の避難が難しい
- ・災害時に高齢者等の安全確保が難しい
- ・ハザードマップはあるが、浸水時に避難経路が使えない地域もある
- ・暗い道や人通りの少ない道があり、通行に不安がある

→アンケート調査では、本市の施策の中で、「防災・防犯等の活動による安全安心なまちづくり」は本市が力を入れて取り組むべきこととして最も支持されており、地域福祉の中でも重要な課題の1つであると言えます。

避難行動要支援者*名簿（高齢者や障がいのある人等、災害時に自力で避難することが困難な人の名簿）を活用した避難支援や、自主防犯パトロールの実施等、市と地域住民とが協力しあって、平常時及び災害時においても安心して暮らせるまちづくりが必要です。

【今後の方策】

- ・避難行動要支援者避難支援の体制づくり
- ・防災及び防犯意識の向上 等

(6) 様々な困難を抱える人に対する支援

【現状・問題点】

- ・老老介護が地域の課題である
- ・ひきこもりを長期化・高年齢化させないために、実態把握と家族への支援が必要である
- ・潜在的な生活保護対象者、生活困窮者が増加している

→様々な困難を抱える人の問題の多くは潜在化しており実態が掴みづらいですが、大きな問題になる前に、市や関係機関などの連携により適切な介入と支援が必要となります。アンケート調査では、地域の課題の中で、「老老介護」が最も高くなっており、本市の大きな課題の1つであるといえます。

そのほかにも、8050問題、ひきこもり、生活困窮者等、福祉分野に限らず様々な分野の連携により円滑な支援を行っていく必要があります。

【今後の方策】

- ・相談窓口や支援内容の周知
- ・関係機関との連携強化
- ・庁内関係課がスムーズに対応できる体制づくり 等

(7) 地域の関係機関・関係者等の連携

【現状・問題点】

- ・地域と各種関係機関との連携が必要である
- ・民生委員の負担が大きくなっており、民生委員に頼らないアイデアが必要である

→アンケート調査では、地域の問題を解決するためには、「行政や住民だけでなく、地域で活動する人や事業者、関係機関等と協力して取り組むべきである」と回答した人が約4割を占めており、地域と各種関係機関との連携が重要だと言えます。地域住民、コミュニティ推進協議会、町内会、子ども会、老人クラブ、民生委員・児童委員、ボランティア団体、学校、事業者、市、社会福祉協議会など、様々な主体がそれぞれの特性や役割を生かしてネットワークを構築し、地域福祉の推進を図る必要があります。

【今後の方策】

- ・地域における多種多様な主体の連携強化
- ・様々な活動主体が実施する地域活動の内容周知 等